

スクールインターンシップで学んだこと

社会学部 教育文化学科 2年次生

◇参加した理由

私は一回生のときに、子どもと関わる仕事をするという選択肢を考え始めました。そのときは、NPO 法人が募集している児童ホーム・日本語指導のボランティアなどに参加して活動を行っていました。その中で、「小学校が果たす役割の大きさ」をととても感じました。外国にルーツを持つ児童の宿題を出すのも、子どもが児童ホームに来る前に起きたトラブルを整理しているのも、小学校の先生です。子どもの生活の大部分を過ごす学校では、どのような取り組みが行われているのか、先生方がどのようなことを工夫されているのか、実際に見てみたいと思いました。小学校教員に魅力を感じていたこともあり、スクールインターンシップに参加することを決めました。

◇研修内容

- ・校門でのあいさつ運動
- ・授業の見学、タブレット設定などの補助
- ・放課後の学習指導
- ・研修旅行での補助（備品運搬や食材・お茶の準備など）

◇インターンシップで得た学び

私は、このインターンシップを通して本当に多くのことを学びました。主な学びとしては、二つのことが挙げられます。一つ目は、先生方の授業づくりにおける工夫です。インターンシップの期間では、さまざまな授業を見学しましたが、どの授業も聞いていて本当に面白かったです。発達段階や児童の実態に合わせて教材や段取りが工夫されており、自然と問いが引き出されるような授業だと実感しました。

二つ目は、教員という仕事のやりがいです。6年生の研修旅行に帯同させていただいたときに、1日目には集合時間も守ることが難しかった子どもたちが、2日目には自分たちが企画した素晴らしいレクリエーションを開催している姿を見ることができました。たった3日間の研修旅行でも、子どもたちは大きく成長することを感じました。教員は、子どもたちの変化や成長を間近で感じることができる、素敵なやりがいのある仕事だということを学ばせていただきました。

◇参加を考えている方へ

すでに教員を目指すことを決めている方も、悩んでいる方も、ぜひ参加してほしいと思います。スクールインターンシップでは、事前に面談を行い、大学が研修校を丁寧に決めてくださいます。事前授業も充実していて、心構えをしてから挑戦することができるのが良いところだと思います。また、スクールインターンシップは、教育実習以外で学校現場を直接見て学べる貴重な経験です。普段の大学での学びを、実際に児童生徒を前にして実践できるだけでなく、教員の方の視点から見た児童の実態やそれに対する工夫なども詳しく学ぶことができます。私はこの機会を通して、教員になるという意欲が向上し、学生ボランティアなどに挑戦できるようになりました。「まだ勇気が出ない」と思っている方も、ぜひ一歩を踏み出してみてください。